シンラの旅-1「小豆島」

オリーブカントリー

エッセイ
芦原 伸

SINRA

CONTENTS

各見出しリンク

SINRA-1 2014.9
「小豆島」オリーブカントリー

SINRA-2 2014.11
「秋田」マタギの里へ

SINRA-3 2015.1
「富岡」富岡製糸場の歩き方

SINRA-4 2015.3
「北海道」北海道ワイン紀行

SINRA-5 2015.5
「小笠原」黒潮の孤島鵜来島漂流

SINRA-6 2015.7
「大台ケ原」熊野古道をいく

SINRA-7 2015.9
「信州木曽谷」森林鉄道が消えた日

SINRA-8 2015.11
「霊峰月山」死と再生の小宇宙

SINRA-9 2016.1
「丹後」古代王国と、絹をめぐる道

SINRA-10 2015.3
「秩父」絶滅危惧種再生へ、開ける道

SINRA-11 2016.5
「佐賀」大海を越えた胡蝶の夢

SINRA-12 2016.7
「津軽」ブラキストン幻の海

SINRA-13 2016.9
「五島列島」クジラたちの海

SINRA-14 2016.11
「飯田」天空の里、遠山郷

SINRA-15 2017.1
「北海道」ジンギスカンをめぐる冒険

SINRA-16 2017.3
「宮城県」猫たちの聖地

SINRA-17 2017.5
「京都」神が授けた、いのちの水

SINRA-18 2017.7
「熊楠」の森をめぐる冒険

SINRA-19 2017.9
「カナダ」極北の大地に生命が燃える

SINRA-20 2017.11
「宮崎」神楽仮面の謎を探る

ご購入 Fujisan.co.jp

ご購入 amazon.co.jp プライム

Special Feature
Olive country
SHODOSHIMA

小豆島へ

オリーブカントリー

SINRAの旅

降水量が少なく、からりと乾いた風が吹く、香川県・小豆島。瀬戸内海の温暖な気候を生かして約100年前からオリーブ栽培が行われてきた。高松港からフェリーに乗ること約1時間。そこには、島独自の文化と地場産業、そして海と山の豊かな自然を大切にしながら生きる人々の姿があった。

文／芦原 伸　撮影／生井秀樹
協力／香川県観光協会・小豆島観光協会

岐阜県から移住し小豆島で塩作りをはじめた蒲敏樹さんと、妻・和美さん。移住先として人気の小豆島。年間およそ200人の移住者がやってくる

小豆島オリーブ園にあるオリーブ原木。日本で最も古いオリーブの木とされている

Special Feature
Olive country
SHODOSHIMA

オリーブが息づく島

文／芦原 伸
（ノンフィクション作家）

オリーブの原木は森の中でほの白く霞んでいた

百聞は一見にしかずである。

小豆島はその名の通り、瀬戸内海に小豆を浮かべたような穏やかな島を想像していた。

ところがフェリーの船上から見た島影は緑深く、切り立った山そのものである。島の80パーセントは山林が占め、最高峰の星ヶ城は標高816メートル。島の中央には険しい岩山がそそり立つ寒霞渓という1300万年前の火山の跡がある。小豆島はそれ自体が大きな〝宇宙〟であった。

土庄のフェリー港に降り立つと、潮の匂いがした。港の周辺にはコンビニや商店、ホテルがあり、想像したより大きな町である。

山と海と町――。小豆島は大自然と人間の文化の渾融する独自の世界をもっていた。

オリーブの島として知られている。

小豆島オリーブ園へとレンタカーを走らせた。小豆島は上から見ると、大きな犬が寝そべっているようにも思える。土庄が首根っことすれば、オリーブ園は前足の付け根にあり、土庄からは南海岸に沿ってゆく。途中、穏やかな海が広がり、いかにも瀬戸内海らしい離島の島影が浮かぶ。

オリーブ園にはオリーブの原木がある、と聞いていた。オリーブは地中海地方が原産だが、明るい太陽と乾燥した土地を好み、イタリア、スペインで広がった。日本にはじめてオリーブをもたらしたのは16世紀に渡来したイエズス会の宣教師だった。長い航海でのビタミン不足を補うためオリーブの塩漬けを木樽に詰めて運んだ。ポルトガル由来なので、「ホルトの油」と呼ばれ、献上された豊臣秀吉も喜んだ。その後、鎖国となり日本への航海は途絶えたが、1908（明治41）年、農商務省が栽培計画を提唱し、鹿児島県、三重県、香川県（小豆島）で実験栽培を行った。

2年後、小豆島のオリーブだけが結実し成功した。地中海地方に似た温暖な気候や乾燥した大地がオリーブ栽培に適したようだ。

オリーブ園には2000本のオリーブが植えられ、なだらかな丘陵は開花直前で、ほの白く霞んでいる。その森のなかに原木の巨大樹があった。

大地を覆うように根幹を張ったさまは樹木の精が地を這うようである。周囲の空気が重い。100年の樹齢の放つ霊気だろうか。

「ここはもともと農園で観光施設ではないんですよ。だから無料で開放しています」

オリーブ園の永井順也さん（46）は話す。

「健康志向がブームを呼んだようです。食用は動脈硬化、老化現象を防ぐ効果があるといいます。実際、島に長寿の方は多いようです。加工品の化粧品、石鹸なども人気です」

小豆島はオリーブを中心に自然と文化が循環している

売店はオリーブ製品を手にする観光客であふれていた。イサム・ノグチの遊具彫刻がある園の一角も家族連れで賑わう。

小豆島のオリーブは全国一の生産量を誇っている。島の小学生は入学式の日に苗木がプレゼントされ、自宅の庭でオリーブを育てている。給食にはサ